

情報連絡員報告総括表（令和4年4月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況						
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食料品	1	3		1	3		1	3		1	3		1	2	1		4			4			4		1	2	1				
	繊維工業	1	1	1		2	1	2	1			3			3			3		1	1	1		3		1	1	1				
	木材・木製品	1					1		1		1			1				1		1				1		1						
	紙・紙加工品			2		2			2			1	1			2		2				2		2			1	1				
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1				1				
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品		3			3			3			3			2	1		3			3			3			2	1				
	鉄鋼・金属		1			1			1				1			1		1				1		1			1					
	一般機器	1	1	1	2	1		2	1			3		2		1	1	2			3		1	2		1	1	1				
	電気機器			1			1			1		1				1			1			1		1				1				
	輸送機器			1			1		1				1			1			1			1			1		1					
その他																																
	小計	4	10	6	3	13	4	5	14	1	2	15	3	4	8	8	1	17	2	2	12	6	1	18	1	4	9	7				
非 製 造 業	卸売業		2			2		2				2			1	1		2		X		2			2			1	1			
	小売業	1	1	4		5	1	4	2			2	4		1	5		2	4			6			1	5						
	商店街		1				1	1				1				1			1				1		1			1				
	サービス業	1	3	1	X	X	X	1	3	1		5			3	2		4	1			5			5			3	2			
	建設業		1	3				1	3			2	2		2	2		3	1			3	1		3	1		2	2			
	運輸業			1						1		1			1				1				1			1		1			1	
	その他		1									1			1			1				1			1			1			1	
	小計	2	9	9		7	2	9	10	1		14	6		8	12		12	8		18	2		18	2		9	11				
	合計	6	19	15	3	20	6	14	24	2	2	29	9	4	16	20	1	29	10	2	12	6	1	36	3	4	18	18				

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年4月～令和4年4月)

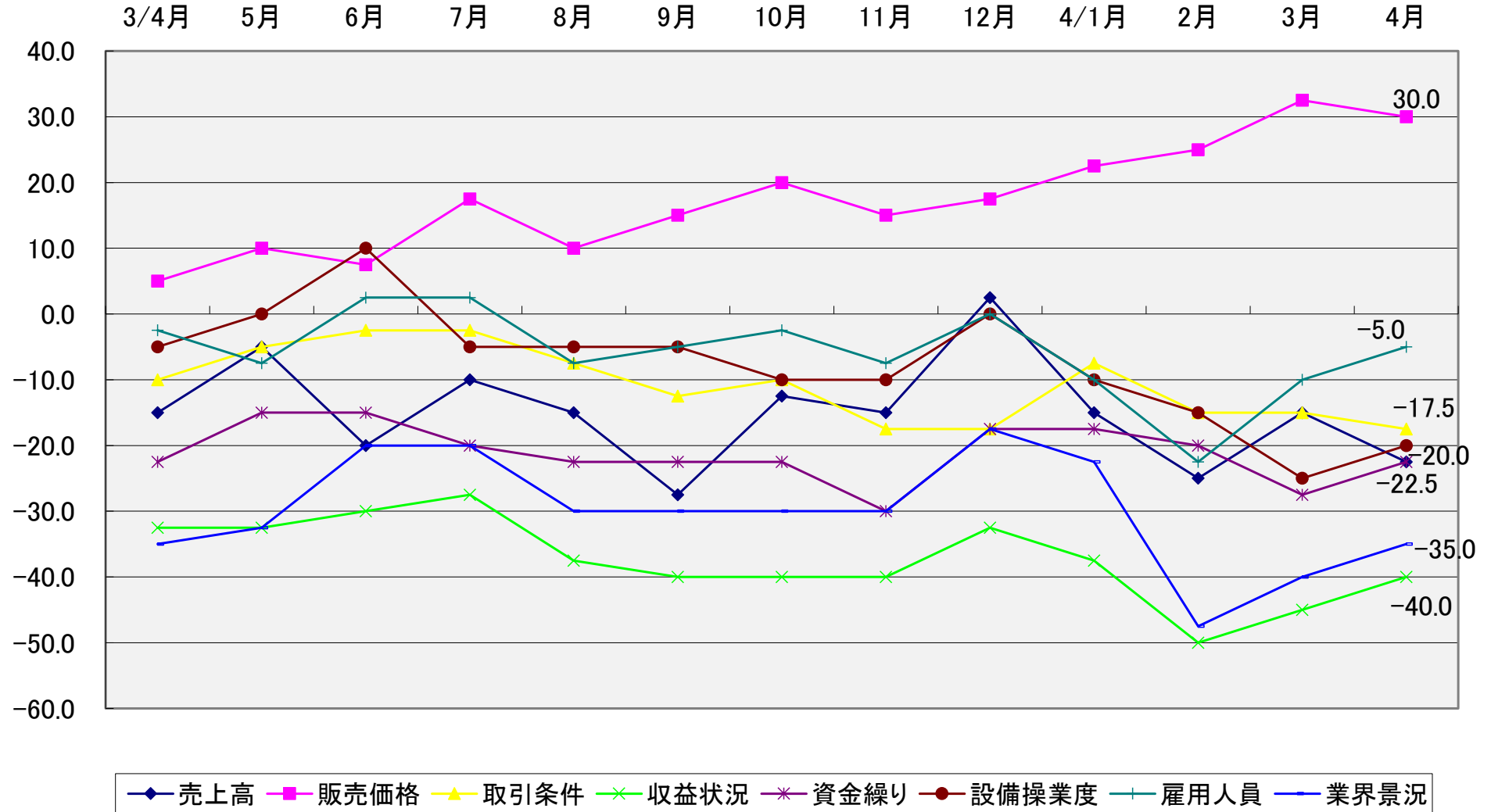
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4/1月	2月	3月	4月	増減
売上高	-15.0	-5.0	-20.0	-10.0	-15.0	-27.5	-12.5	-15.0	2.5	-15.0	-25.0	-15.0	-22.5	-7.5
販売価格	5.0	10.0	7.5	17.5	10.0	15.0	20.0	15.0	17.5	22.5	25.0	32.5	30.0	-2.5
取引条件	-10.0	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-12.5	-10.0	-17.5	-17.5	-7.5	-15.0	-15.0	-17.5	-2.5
収益状況	-32.5	-32.5	-30.0	-27.5	-37.5	-40.0	-40.0	-40.0	-32.5	-37.5	-50.0	-45.0	-40.0	5.0
資金繰り	-22.5	-15.0	-15.0	-20.0	-22.5	-22.5	-22.5	-30.0	-17.5	-17.5	-20.0	-27.5	-22.5	5.0
設備操業度	-5.0	0.0	10.0	-5.0	-5.0	-5.0	-10.0	-10.0	0.0	-10.0	-15.0	-25.0	-20.0	5.0
雇用人員	-2.5	-7.5	2.5	2.5	-7.5	-5.0	-2.5	-7.5	0.0	-10.0	-22.5	-10.0	-5.0	5.0
業界景況	-35.0	-32.5	-20.0	-20.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-17.5	-22.5	-47.5	-40.0	-35.0	5.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和4年4月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。また、販売状況においてもコロナウイルスの影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いてきたが、ここにきてやや回復の兆しがみられる。 今年にはコロナの影響もあり、通常総会を書面中心にて実施する予定にしている。
	醤油味噌	新年度に入り、厳しい経営環境を乗り切るため、新しい経営体制で事業に臨む事業者もある。昨年度は当組合員の廃業による脱退が2件あった。4月から値上げを実施した事業者もあるが、原材料他諸経費の上昇分をすべて価格転嫁できていない状況である。穀物相場、エネルギー、物流費等の上昇、さらに円安、ウクライナ問題等、原価上昇要因が先行し、製品の値上げが追いついていかない状況である。国内市場縮小の中、政府の食品の輸出拡大政策による補助金を活用し、輸出事業に取組む組合員もある。4月初旬、農水省の「令和3年度補正加工食品輸出産地確立緊急対策」の申請を当組合から行った。
	すし・弁当・調理パン製造	当組合の組合員は、弁当の製造販売、企業、病院、学校関係の給食施設の運営を主に行っているが、コロナウイルス感染拡大による企業の在宅勤務、学校授業のリモート教育への移行等により、喫食者が減少している。日配弁当に関しては、以前より他県からの業者の進出により、販売競争は一層厳しさを増している。また、世界状況及び円安の影響を受け、小麦、食用油、食肉類の原材料費、エネルギー、燃料費の高騰により、非常に厳しい状況になっている。値上げの要請も行っているが、原材料費、物流費を賄える値上げは受け入れてもらえず、現状、弁当の品種及び副菜の品数を減らし対応している。
	製麺	飲食店、サービスエリア、おかげ横丁は、来客数はかなり戻ってきたように思われる。しかし、小麦粉の価格改定が6月に行われる。先が見えない状況である。 4月27日に組合の役員会を開催し、5月25日に対面での通常総会を開き、懇親会は行わない事とした。地域特産業の会合は、毎年一年に一回は試食会を開催する事で話がまとまった。役員改選期であり、一部の役員は退任する予定である。
繊維工業	組紐	今年に入ってから原材料の高騰が続いており、また、中国のロックダウンの影響による原材料の不足があり、少し増加の兆しが見えてきているものの、先行きが不透明である状況は変わらない。
	テントシート	昨年度、材料価格の改定があったが、5月から再び10~20%価格上昇する通知が届いている。
木材・木製品	木材	急激な円安やウクライナ情勢により、欧州材を中心とした輸入材の仕入が困難となっており、更なる影響が憂慮されている。昨年来の住宅資材全般の品薄状態は依然として続き、前月比ではやや弱含み傾向であるが、前年同月比では原木、製品共に高値維持で推移している。
製 造 業	紙器段ボール	大手製紙・段ボールメーカーが打ち出していた、段ボールシートの値上げ交渉が、本格化してきた。予想では5月21日から6月1日から8~10%の値上げになりそうである。お得意先にどこまで値上げがご理解いただけるか各組合員の苦戦が強いられるであろう。4月は食料品関係を中心にまずまずの動きである。
	紙・紙加工品	古紙
印刷	印刷	今年も三重県民手帳の売上金の一部を(公社)三重県緑化推進協議会様へ寄付することができた。業況は、売上等を不変としたがこれは、コロナ禍の影響による厳しい業況があまり変わらない状況ということである。
窯業・土石製品	伊賀焼	まだまだ業況は依然として厳しい。現在も原料、原材料の値上がりによる価格転嫁に各事業所は頭を悩ませている。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は自動車関連が減少傾向にあるが、傘下の企業の景況調査によると、増が40%、横ばいが40%、減少が20%、また、利益状況は増が33%、横ばいが45%、減が22%となっている。建築関連部品はやや増、ガス関連部品は横ばいの状態であった。ウクライナ情勢の影響、上海のコロナ感染状況に起因する、原油価格の高騰、原材料(特に金属類)の高騰があり、収益面は非常に厳しいものがあり、顧客先には原材料高騰に対しての値上げ交渉を継続中である。

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和4年4月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
一般機器	四日市	戦争激化、急激な円安を背景に、材料不足、仕入価格の上昇等で生産体制に悪影響が出ている。当組合としては、コロナ禍のため、約2年間行事を開催できていない。今後状況が安定すれば、今年度は恒例行事、勉強会等を開催し、組合員の研修・交流・情報交換の機会を設け、組合の活性化につなげたい。
	津市	引き続き、銅材料の入手は厳しい状況である。その影響で受注キャンセルがあるとすると次にいつ材料が入荷するか不明なため、材料のキャンセルは難しく、在庫が増えてしまう。某自動車業界も生産計画を見直しているため、しばらくは苦しい状況が続くと思われる。ただし、休業する程の落ち込み方ではないため、もの凄く悪い状況ではない。
	伊勢	需要は増加し注文が増えてきたが、部品不足、物不足となり、組立てが出来ず、完成が遅れている。そのため、出荷が出来ない物が在庫を増やしている。鉄の値段も上がり、メーカーが生産を抑えているのか、不足の解消は見えてこない。
電気機器	鳥羽	新年度に入り、前々から懸念されている半導体がらみの部材の納入が遅れ、現状の動きは10~15%ダウンで動いている。
輸送機器	鈴鹿	サプライチェーンからの供給の混乱により、鈴鹿市内の大手自動車メーカーでは4月の生産計画を当初は3割減としていたが、上海のロックダウンにより、部品供給がさらに深刻となり、最終的には5割程度の減産となった。その一方で一次下請けでは部品在庫の抱え込みに努めるため、通常量以上の発注をし続ける部品もあり、閑散な部門と繁忙な部門とで必要稼働時間に極端な差が出来てしまい、人員配置に苦労している。また海外リスクを避けるためか、既存部品を転注(発注先を変更)する主旨の見積依頼が相次いでいる。
非 製 造 業	青果	野菜前半：雨のため、予想された程の入荷数量が増えない品目が多いが、価格には影響が出ていない。高値であった鹿児島産のじゃがいもは、平年並みの価格に落ち着いた。玉ねぎ、キャベツも順調に入荷した。レタスは雨の影響に加えて兵庫産が終盤となり、値上がりしている。 野菜後半：レタスは長野、茨城からの入荷が増え、今月末はかなりお値打ちである。熊本産の長ナスは最盛期を迎え、平年に比べて安い。玉ねぎの引き合いが強まっているが、悪天候のため入荷が少なく価格が上がっている。 果物前半：県内産のイチゴの最盛期になり、入荷も多く価格も1年で一番のお買い得である。熊本産のスイカの入荷も増えているが、メロン類は干ばつ等で生育が遅れている。 果物後半：県内産のイチゴが終盤に向かっていくが安くなっている。九州産のネット系(メロン品種)のアンデスメロン、タカミメロン等の入荷がやや遅れている。
	自転車	新学期が始まり、中学生の新しい自転車が目立つこの時期、各ショップは春需(通学自転車)から、スポーツ車、電動アシスト自転車への展示並びに販売へと切り替えている。しかしここに来て、中国のロックダウンにより商品の入荷がストップし、需要があるにも関わらず販売困難となっている。現在、海上輸送費上昇の影響もあり、商業メーカーはまたしても5月2日出荷分より価格の改定を打ち出し、工業メーカーにおいては、部品15~20%、普通自転車、電動アシスト車は10~30%アップを発表した。今後、小売店として、どのように小売価格、修理価格を変えていくべきか思案しているところである。
	小売業	年度替わりでメーカーや取引先のリアクションが弱くなっている感じがする。相変わらず、商品の入荷状況は品不足や生産時の部品供給が滞っている影響で、即納商品が1ヶ月~3ヶ月待ちという状況である。更に商品別に入荷の見込みが立っていないものも出てきている。今までは新商品が発売する前に旧商品の割安仕入れが出来ていたのが、品不足で安く入荷できず、購入頂く特価の案内もできず商品販売に影響が出ている。工事関連の部材なども価格の上昇が起きていて、値上げもせざるを得ない状況である。
	石油	ガソリン補助5円→25円→35円とし、政府が4月26日公表した物価対策で最大の1兆5000億円を投じるのが、ガソリン価格を抑える補助金である。「激減緩和」が当初の目的であったが、価格目標の引き下げと期間延長で事実上の値下げ政策であったのだろう。補助金は1月27日に始まった。当初は1L当たり最大5円を石油元売り各社に支給し、3月10日からは25円に引き上げた。その結果、全国のガソリン価格は1L当たり、172円程度を維持している。今回の拡充で補助金35円に増やし、価格目標を172円から168円へ引き下げる。期間も4月末から9月末まで延長する。石油業界にとっては大変ありがたい話であるが、この最大補助35円の先がまだまだ見えない状況である。一日も早くロシアとウクライナ問題の解決を望むものであり、変化も必要である。
	スポーツ	コロナ禍でスポーツを行う環境が以前に比べて変化している。今までは学校(中学・高校・大学)におけるクラブ活動としてのスポーツが主流であった。オリンピックの種目にも通じるが、そのオリンピックの中でもボルダリング、スケボー等、新しい種目が生まれており、大きく変化している。これらの種目は生涯スポーツにもつながる事もあり、当業界としても新種目をどのように取り入れていくかが大きな課題である。

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和4年4月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）	
非 製 造 業	商店街 熊野市	まん延防止等重点措置が全国的に解除された久しぶりのゴールデンウィーク前半は、県外ナンバーの車も多く見られ、各観光地の人出も多く久しぶりに盛況のようであった。ただ、比較的若い層が多いようであるため、購買力について中高年齢層に比べては、劣ってしまうとの事である。今後再開するであろうGo toトラベル等の再開を待ち望んでいる声が多いのも確かである。	
	サービス業	旅館	コロナ禍も3年経過して、感染者数は一向に減らないものの、顧客はコロナ慣れしてしまった感もあり、少しは明るさも見えてきたようであるが、まだまだコロナ禍前の状況に戻るのには、程遠いようである。対前年220%、2019年比は50%程度であった。
		警備	昨年と同じく、コロナの影響でイベント中止が多く、例年並みの売上にとどまった。
	建設業	総合工事業	国、県ともに公共工事の発注は閑散期に入った。令和3年度の補正予算が前年度補正予算に比べ、小規模であったことから、発注時期の平準化効果は限定的となった。例年、国の発注工事では6月、県の発注工事では7月後半から当年度予算工事が本格的に発注されることから、5月の受注環境も厳しい見込みである。また、生コンクリート、鉄筋等の主要資材の単価動向にも注視が必要な状況になっている。
		内装工事業	4月は前年同月比で大幅にマイナスとなった。年度は変わったが、コロナの悪い影響が出ているようで、あまり、幸先のよいスタートとはならなかった。
		水道工事業（亀山）	給湯器等は入手困難が続いており、トイレ関連では便座の入手がまだまだ困難な状況である。また、手洗いの自動水栓の入手も困難であり、使用中の故障の対応に苦慮している。管材についても値上がりし、まだまだ先行きが不透明である。こうした中で当組合としては、今年度も亀山市から量水器の取り換え、漏水修理の業務委託の工事が受注できた。
運輸業	トラック	軽油価格は政府の燃料価格激変緩和対策事業の効果で4ヶ月ぶりの値下げとなったが、価格は依然として高値となっていることから、運送業者に経営を圧迫している。電子・デバイス部門は順調に推移しているため、関連する輸送も引き続き好調である。自動車関連は新型コロナウイルス感染拡大に伴う中国・上海市等でのロックダウンによる部品調達難や半導体不足の影響により、最大手のトヨタ自動車、ホンダ技研の生産が大幅に減少し、国内販売台数並びに輸出台数が前月を大きく下回ったことから、関連する輸送も大きな影響を受けた。一方で、スーパー、小売関連は順調に推移している。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	また新しい情報があれば教えてほしい。助成できる案件があれば、情報提供をお願いしたい。
小売業	スポーツ	少額随意契約の活用とその適用限度額の大幅な引き上げの実現を願いたい。
サービス業	旅館	「県民割」が拡大して「ブロック割」（全国を6ブロックに区分）した場合、三重県は中部地方に入るため、関西とは区別されてしまう事になる。もともと関西からの集客が多かった事もあり、隣接県（和歌山県、奈良県、滋賀県）に働きかけ、相互交流が可能となれば、関西圏からの集客が期待できるため、是非とも開始前より交渉していただきたい。